

## 植林事業地（環境保全と友好交流）訪問記

一般社団法人 日本アジア青年交流協会

理事 寺谷光二

平成27年度、日中緑化交流基金助成による現地視察訪問は、継続事業として下記の4ヶ所で行なった。当協会の視察参加者は、5月下旬に療養中であった関紀夫理事長が突然に永眠され、今年4月より就任された新理事長、山崎照正氏を団長に急遽編成され、中村俊輔専務理事、寺谷光二理事、川間公雄理事、浅見享理事が参加、緑化植林事業の中国側カウンターパートナーである全国青年連合会からは「中国国際青年交流中心」の王希宏部長、計6名の視察団で構成された。本稿に於いては、現地関係者の氏名、役職等は特筆者以外割愛させて頂きたい。

視察日程：2015年6月5日～6月11日

- 植林地：（1）日中青年遼寧省大凌河流域水源涵養林
- （2）日中青年吉林省長春市農安県生態緑化事業
- （3）日中青年吉林省九台市生態緑化事業
- （4）日中青年四川省思蒙河流域生態緑化モデル林事業

（1）日中青年遼寧省大凌河流域水源涵養林

現在まで8つの村、大凌河流域地点で「銀中ポプラ」5万本が植樹されており、



状況を確認。 計画通りの活着率と木と木の上にマメ科の植物を植え、施肥効果（バクテリア）を施す等の配慮がなされていた。 協会創立者、故岡崎嘉平太先生に対し、故周恩来首相が国交正常化にあたって、その友好の功労者に対し「森を見る時に、その木を植えた人の事を思う」と言われた言葉が脳裏をかすめた。 改めて「飲水恩源」の使徒たる決意を新たに誓った。

## (2) 日中青年吉林省長春市農安県生態緑化事業

長春市第2松花江

流域2期25ヘクタ

ールが厳格なる管

理方式のもと楊樹

（ポプラ）と山杏

が植樹されている

ことを確認、生育

は順調で除草剤の

被害は見られなか

った。 この日、

孫盛鋒共青団長春

市農育部部長、曲

強中共農安県常任委員副部長から「この長春市松花江流域地区が中国植林地の模範の場

所として注目されていること」。そして長春市で7月中旬に中国国家林業局、各植林地

代表、各省林業局長の120名、それに日本側から日中緑化基金事務局3名が一同に会し

「日中緑化交流基金、全国管理会議」が開催される運びになったとの報告があり、一同

は喜びと拍手につつまれました。 山崎理事長より「精魂込めて事業に取り組んで頂き

ここに共に喜びを分かち合いたい。 環境保全の意味から中国のみならずグローバル的

な重要な意味合いを持つものである。 継続は力であり、今後も更なる進化をお互いに

目指しましょう」と語る。



### (3) 日中青年吉林省九台区生態緑化事業

「国家級の森林公園」200ヘクタールが長春九台区四稜区に広がっていた。1期200分の1を青年達が障子松による植林を担当しており、かなりの急斜面での植樹作業であった。当日は全国大学統一試験日と重なり九台区共青团メンバーと共に植樹を実施し、この地での活動はウェブサイトで発信されており、全国のモデルの中日緑化事業の地区としての誇りだと九台区共青团委員会のリーダー達は異口同音に語りその表情は明るかった。山崎理事長から親しみと友情を込め「一意専心」日中青年交流の将来への友好の絆を確かなものとしたと語る。



で発信されており、全国のモデルの中日緑化事業の地区としての誇りだと九台区共青团委員会のリーダー達は異口同音に語りその表情は明るかった。山崎理事長から親しみと友情を込め「一意専心」日中青年交流の将来への友好の絆を確かなものとしたと語る。

※11月8日は早朝長春市を出発し、空路成都市へ移動する。4時間の長旅、メンバーの疲労がピークとなった。胡国民氏（青神県委書記）、張聡女史（共青团青神県委書記）の出迎えお受け、成都空港より専用車にて眉山市青神県へ

### (4) 日中青年四川省思蒙河流域生態緑化モデル林事業

早朝より前期植林地を含む今期植林地視察に出発。雨が多く、竹の育成には最適の地域である青神県は禿げ山を竹による植樹により蘇生させる意欲は県民一同が積極的あり経済効果も徐々に増大している。



植樹の活着率、活力率も良好であった。竹には雷竹と綿竹とがあり、雷竹は食材に、綿竹は繊維質で紙や織物に加工される。日中緑化事業の竹材（綿竹）を加工し、トイレットペーパー、ティッシュを生産。現在22ヶ国、44都市に出荷している。2016年、青神県に於いて「竹文化織物世界博覧会」を開催する運びになり、私達の環境保全活動がこの地に於ける経済発展にも波及し影響を与え活性化しているとの報告を受けました。視察団一行は今年度及び昨年度植林地の成育状況を視察し確認と竹材加工工場を見学しました。

続いて思濠河流域模範林は詩人で有名な蘇東坡の故郷ですが竹林植樹は洪水等の水害防止に役立っているとの説明を受けながら「合作創作」「携手共建」「生態文明」協力して改革を行い、手を携えて生態文明を共に構築しようとの日中青年緑化事業の活動スローガンを再確認致しました。お互いに意見の交換をし、散会后専用車に分乗し成都空港へ出発、一路北京へ

追記 中華全国青年連合会本部及び中国国際青年交流中心表敬訪問

6月10日午前中国側カウンターパートナーである中華全国青年連合会本部（主席助理、万学軍氏出席）並びに午後中華国際青年交流中心（副主任、洪桂梅女史出席）を表敬訪問し植林地4ヶ所の植林視察（各地域の生育状況等）を無事終え、各地区の皆様と更なる交流を深めて参りました事を報告しました。

万学軍氏談：今後共、中国林業局と連携し推進していくことを約束したい。両国民間交流事業として重大さを確認しています。

洪桂梅女史談：次世代の為に今後も貴協会と継続責任を担い成功とリスクを共に共有して行きたいと思えます。強行スケジュールにも関わらず合作し、生態文明を構築できたことを喜びたいと思えます。